

## 安全データシート

## 1-ペンタノール

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: 1-ペンタノール
CB番号	: CB7158872
CAS	: 71-41-0
EINECS番号	: 200-752-1
同義語	: 1-ペンタノール, アミルアルコール

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 溶剤、エステル合成の中間体、食品添加物、香料。
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 分類実施日

H22.3.16、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用

## 物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない

有機過氧化物 分類対象外

酸化性固体 分類対象外

酸化性液体 分類対象外

水反応可燃性化学品 分類対象外

自己発熱性化学品 分類できない

自然発火性固体 分類対象外

自然発火性液体 区分外

自己反応性化学品 分類対象外

可燃性固体 分類対象外

引火性液体 区分3

高圧ガス 分類対象外

支燃性・酸化性ガス類 分類対象外

可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 分類対象外

火薬類 分類対象外

### 健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)

生殖毒性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

皮膚腐食性・刺激性 区分2

急性毒性(吸入:ミスト) 区分外

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない

急性毒性(吸入:ガス) 分類対象外

急性毒性(経皮) 区分外

急性毒性(経口) 区分外

### 環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 区分外

水生環境急性有害性 区分3

## 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS05	GHS07

### 注意喚起語

危険

### 危険有害性情報

H335 呼吸器への刺激のおそれ。

H332 吸入すると有害。

H318 重篤な眼の損傷。

H315 皮膚刺激。

H226 引火性液体及び蒸気。

### 注意書き

### 安全対策

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P233 容器を密閉しておくこと。

P240 容器を接地しアースをとること。

- P280 保護手袋 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。
- P271 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
- P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
- P261 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーの吸入を避けること。
- P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
- P242 火花を発生させない工具を使用すること。
- P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

#### 応急措置

- P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察 / 手当てを受けること。
- P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。
- P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

#### 保管

- P405 施錠して保管すること。
- P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

#### 廃棄

- P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

---

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: n-Amyl alcohol Pentyl alcohol
化学特性(示性式、構造式等)	: C <sub>5</sub> H <sub>12</sub> O
分子量	: 88.15 g/mol
CAS番号	: 71-41-0
EC番号	: 200-752-1
化審法官報公示番号	: 2-217
安衛法官報公示番号	: -

---

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

#### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

#### 飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を飲ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

#### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

#### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

#### 使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

#### 適切な消火剤

二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 泡 粉末

### 5.2 特有の危険有害性

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることがある。

高温で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

分解生成物の本質は不明である。

### 5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

### 5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

## 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

#### 火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

#### 衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講ずること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

#### 保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

#### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講ずること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

#### 保護具

##### 眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

##### 皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ適用される。溶解、他の物質との混合、および EN374 に記載の逸脱条件での使用については、

CE 認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

[www.kcl.de](http://www.kcl.de))

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.4 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Camatril? (KCL 730 / Aldrich Z677442, Size M)

本推奨は、当社発行の安全データシート,に記載されている製品およびその指定の使用法のみ  
適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、  
CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

www.kcl.de)

飛沫への接触

材質: クロロプレン

最小厚: 0.65 mm

破過時間: 240 min

試験物質: KCL 720 Camapren®

身体のプロテクト

難燃静電気保護服。

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387お  
よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色透明
臭い	特徴臭
pH	データなし
-79 °C : ICSC (1997)	
138 °C : ICSC (1997)	
33 °C (密閉式) : Ullmanns (E) (6th, 2003)	
300 °C : Lide (88th, 2008)	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
3.31mPa·s (25 °C) : Ullmanns (E) (6th, 2003)	
データなし	
log P = 1.50 : SRC (Access on Aug. 2009)	
アルコール、エーテル : 混和 : HSDB (2006) 有機溶媒 : 混和 : HSDB (2006)	
水 : 22 g/L (25 °C) : SRC (Access on Aug. 2009)	
0.82 : Chapman (Ver.17:1, 2009) 0.8146g/cm <sup>3</sup> : Lange (16th, 2005)	

データなし

---

3 (空気=1) : ICSC (1997)

---

2.2 mmHg (25 °C) : SRC (Access on Aug. 2009)

---

1.2~10 % (25 °C) (1atm) : Lange (16th, 2005)

---

#### 融点・凝固点

-79 °C : ICSC (1997)

#### 沸点、初留点及び沸騰範囲

138 °C : ICSC (1997)

#### 引火点

33 °C (密閉式) : Ullmanns (E) (6th, 2003)

#### 自然発火温度

300 °C : Lide (88th, 2008)

#### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

#### 爆発範囲

1.2~10 % (25 °C) (1atm) : Lange (16th, 2005)

#### 蒸気圧

2.2 mmHg (25 °C) : SRC (Access on Aug. 2009)

#### 蒸気密度

3 (空気=1) : ICSC (1997)

#### 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

#### 比重(密度)

0.82 : Chapman (Ver.17:1, 2009) 0.8146g/cm<sup>3</sup> : Lange (16th, 2005)

#### 溶解度

アルコール、エーテル : 混和 : HSDB (2006) 有機溶媒 : 混和 : HSDB (2006)

水 : 22 g/L (25 °C) : SRC (Access on Aug. 2009)

#### オクタノール・水分係数

log P = 1.50 : SRC (Access on Aug. 2009)

#### 分解温度

データなし

#### 粘度

3.31mPa·s (25 °C) : Ullmanns (E) (6th, 2003)

## 粉じん爆発下限濃度

データなし

## 最小発火エネルギー

データなし

## 体積抵抗率(導電率)

データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

蒸気/空気混合物は、強く温めると爆発性となる。

### 10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

次との反応で燃焼ガスや蒸気の発火または生成のおそれ

フッ素

酸素

次と激しく反応

酸化剤

アルカリ金属

アルカリ土類金属

ハロゲン

酸塩化物

イソシアネート

ケイ化リチウム

酸

### 10.4 避けるべき条件

加熱

### 10.5 混触危険物質

ゴム, 多様なプラスチック

### 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

## 11. 有害性情報



## 急性毒性

### 経口

ラットのLD50値が2690 mg/kg、3030 mg/kg (PATTY (5th, 2001))より、分類JISの区分外(国連分類基準の区分5)とした。

### 経皮

ウサギのLD50値が2000 mg/kg、4500 mg/kg (PATTY (5th, 2001))、あるいは >3200 mg/kg (PATTY (5th, 2001))より、分類JISの区分外(国連分類基準の区分5)とした。

### 吸入

吸入(ガス): GHSの定義における液体である。

吸入(蒸気): データ不足。なお、ラットに22℃の飽和蒸気 [推定用量6.2 mg/L/8h = 8.8 mg/L/4h] を投与して死亡例なしとの報告(IUCLID (2000))がある。

吸入(粉じん・ミスト): ラットにエアロゾルで用量14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] を投与して、10匹中2匹がばく露中に死亡したとの報告(PATTY (5th, 2001))によりLD50値は>14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] であるため区分外とした。

## 皮膚腐食性・刺激性

ウサギに24時間閉塞適用して重度の刺激が見られたとの報告(PATTY (5th, 2001))があり、EU分類ではXi; R37/38に分類されている(EU-Annex I (Access on May 2009))ことから区分2とした。なお、この他に、ウサギに刺激性あり (IUCLID (2000))、あるいは、ウサギに4時間閉塞適用して刺激性なし (IUCLID (2000)) との報告もある。

## 眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギに適用して、結膜の紅斑と浮腫、虹彩炎、および角膜損傷が見られ、重度の刺激性であったとの報告 (PATTY (5th, 2001))、ウサギのドレイズ試験において重度な可逆的影響が見られた報告 (IUCLID (2000))、あるいは、ウサギに重篤な角膜損傷が見られ、刺激の程度は10段階中8であったとの報告(IUCLID (2000)) を勘案し、区分2Aとした。

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性:データなし

## 生殖細胞変異原性

In vivoのデータがなく、分類できない。なお、in vitroではエームズ試験で陰性 (NTP DB (Access on Aug. 2009))、ヒト白血球を用いた染色体異常試験で陰性 (IUCLID (2000))、V-79細胞を用いた異数性誘起を含む染色体異常試験で陽性 (IUCLID (2000))が報告されている。

## 発がん性

データなし

## 生殖毒性

妊娠中のラットに飽和蒸気を19日間反復吸入投与した試験で、発生毒性の証拠は無しとの報告 (PATTY (5th, 2001))があるが、親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関しては、データがなく分類できない。

## 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

ヒトの影響として興奮、難聴、複視、CNS抑制、痙攣の前兆等の神経毒性症状が報告 (HSDB (2006)) されているが、リスト2の文献であることから区分2 (中枢神経系)とした。また蒸気は気道を刺激するとの記述があり(HSDB (2006))、EU分類ではXi; R37/38に分類されている(EU-Annex I (Access on May. 2009))ことから区分3(気道刺激性)とした。なお、マウスに吸入ばく露(エアロゾル)で区分2のガイダンス値の上限を超えた用量ではあるが明らかに肺水腫が見られたとの報告 (PATTY (5th, 2001))もある。

## 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットに最大用量1000 mg/kgを13週間、経口反復投与した試験で、摂餌量および摂水量、血液学および血液生化学検査、尿検査、肝機能、臓器重量、あるいは組織病理検査結果に投与の影響はなかったとの報告 (PATTY (5th, 2001)) により、経口投与では区分外に相当するが、他経路のデータがないので「分類できない」とした。

### 吸引力呼吸器有害性

動粘性率が4.1 mm<sup>2</sup>/s (20 °C) (Ullmanns (E) (6th, 2003))より40°Cで14 mm<sup>2</sup>/s以下と推定され、3以上13を超えない炭素原子で構成された一級のノルマルアルコールであることから、国連GHSの区分2に該当するが、区分2を用いないJIS準拠のガイダンス文書に従い分類できないとした。なお、ラットによる0.2 mLの吸引で10匹中10匹死亡とのデータ(PATTY (5th, 2001))がある。

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

#### 魚毒性

止水式試験 LC50 - Danio rerio (ゼブラフィッシュ) - 530 mg/l - 96 h

備考: (ECHA)

ミジンコ等の水生無脊椎動物

止水式試験 EC50 - Daphnia magna (オオミジンコ) - 341.21 mg/l - 48 h

#### 脊椎動物に対する毒性

(理事会規則 (EC) No. 440/2008, 付属書, C.2)

### 12.2 残留性・分解性

#### 生分解性

好気性 - 曝露時間 18 d

結果: 100 % - 易分解性。

(OECD 試験ガイドライン 310)

#### 生化学的酸素要求量

1,278 mg/g

(BOD)

備考: (IUCLID)

#### 化学的酸素要求量

1,814 mg/g

(COD)

備考: (IUCLID)

#### BOD/ThBOD比

47 %

備考: (IUCLID)

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壤中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：1105 IMDG（海上規制）：1105 IATA-DGR（航空規制）：1105

### 14.2 国連輸送名

IATA-DGR（航空規制）：Pentanols

IMDG（海上規制）：PENTANOLS

ADR/RID（陸上規制）：PENTANOLS

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：3 IMDG（海上規制）：3 IATA-DGR（航空規制）：3

### 14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

### 14.6 特別の安全対策

なし

### 14.7 混触危険物質

ゴム, 多様なプラスチック

---

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

### 海洋汚染防止法

有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)

## 消防法

第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)

## 船舶安全法

引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)

## 航空法

引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

## 港則法

危険物・引火性液体類(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二ホ)

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

### 参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageSize=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageSize=0&request_locale=en)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

**免責事項:**

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。